

アフガニスタンは訴える

講師：RAWAと連帯する会 桐生 佳子さん

2009.12.6

12月6日、京田辺市中部住民センターで開催された「京田辺・綴言9条の会」「田辺九条の会」共催の「ピースナイン09」における講演要旨です。

なお、講演では、桐生さんが現地撮った写真もふんだんに取り入れたパワーポイントを終始活用。分かりやすいお話とともに「見て分かる」講演でした。

< 講演要旨 >

昨日は、南京事件の加害者の立場からの話を聞く機会があった。今朝からはこちらで、戦争体験等の貴重なお話も聞かせて頂いた。「九条の会」のような地道な取り組みが、本当に大切だと思う。開沼さんから講演依頼があって、「はい」と言ったものの、この大役が務まるか心配。

1 アフガニスタンという国・・・30年以上戦争、極めて貧しい多民族国家

・面積は日本の2倍弱、海が無く大半が山と砂漠の国。四季があり、夏は猛暑、冬はマイナス30度以下で極寒の厳しい気候。人口は2500万人位。しかし、過去30年間一度も国勢調査が行われていない。パシュトン人が4割強を占めるが、言語は30以上もある多民族国家。

・かつてはイギリス、ソ連、現在ではアメリカを中心とするNATO軍の侵攻を受け、近年の30年ほどは戦争と内戦が続いている。この国で戦争が絶えないのは、パキスタン、イラン、ウズベキスタン、中国など6つの国に接している重要な位置に深い関わりがある。

・「誤爆」とよく言われるが、無人機から普通の村の人達がミサイル攻撃も含めてよく撃たれ、たくさんの人達が殺され傷ついている。「何が誤爆やねん」と思う。

・主要産業は農業と牧畜で国民の90%が農民と遊牧民。1日100円以下の生活をしている人が人口の半分を占める。世界のアヘンの9割がアフガニスタンで生産される。

2 難民300万人、活かされていない民生支援・・・何重にもピンハネ

・300万人の難民が、国の内外にいる。イランやパキスタンにいる難民が強制的に帰国させられたりしているが、政府が与えた難民キャンプの周辺が地雷原で作物も作れず、仕事も食料も十分になかったりする現状がある。子ども達は、ゴミの山をあさって売れるものを探したりしている。働いている子供も少なくない。外国人を見たらもらえるまで離れない物乞いもいる。

・9、11以降、アフガニスタンには莫大な金流れ込んだが、あっちで抜かれこっちで抜かれして、支援の必要な末端には十分届いていない。その結果、支援で作られた施設も、「水の出ない水道」や「排水が悪く1年で使えなくなる豪華トイレ」(カンダハル州立大学)等となっている例も見られる。その資金も、最近では激減した。アフガニスタン支援

をしているジャーナリスト、皆さんもご存じの西谷文和さんは「僕は半分取られても、半分が人々のためになるならいいと思っている」と言う。そうでも思っていないとやっつけられない現実がある。

3 決定的に社会的地位が低い女性・・・一人歩きも買い物も出来ない

- ・女性は、識字率1割、一般に学校に行くこと働くことはほとんどない。一人で出歩くこともない。因みに、女性の下着を作るのも、売るのも、買う人も男性である。
- ・女性が一人歩きしていると、売春婦と間違われる。女性が買い物に出るときには、親族が同行する。私の頭からかぶるグルカも、大学の男性教授に買ってもらった。
- ・女性が少し大きくなると、写真に撮られてはいけないという風習がある。どこかの奥さんの写真を撮ったら殺されることもある。
- ・夫を失った女性が生きていくことは、生活の手段がなく非常に難しい。大家族制なので、これに吸収されればいいが、そうでないと売春婦か物乞いになる。
- ・そんな中でも、学校の先生、看護婦、医者も、女性も就ける仕事と認められている。町でナン（平たいパンの一種）を売っている女性を見かけたので、非常に珍しいと思って写真を撮った。これは最近のニュースによると、イタリアの支援団体が女性の自立のために支援しているという。

4 アフガニスタンの教育・・・識字率13～35% 木陰の教室も

- ・カンダハル州立大学教育学部附属小学校の場合・・・アメリカが作った建物はありますが、とても収容しきれないので木陰で授業をしている。「教室」にあるのは、木にかけてある黒板だけ。
- ・ユニセフバッグの威力・・・「学校へ行ったら、筆記具などの詰まったユニセフのバッグがもらえる」というので、勉強する子供を確保する上でずいぶん役に立った、という。
- ・先生に小さい子供がいれば学校へ連れてくる。クラスの誰かがその子をみている。「保育所が欲しい」と言われたが、どうにもならない。
- ・女性が学校に行くことを嫌う風潮が根強く、「学校に行かない」のが普通・・・思えば一昔前の日本にも「女に学問は要らない」という意識があった。
- ・女性の教育を好ましく思わない風潮の中で、子供が塩酸をかけられたり、学校が襲撃でつぶされたり、時には先生が殺されることもある。

5 RAWA・・・女性の人権回復めざし多彩な活動

- ・RAWAとは・・・「アフガニスタン女性革命協会」というおっかない名前の組織。メディアにはほとんど知られていない。女性たちが自ら社会を変えていこうという組織。
- ・女性の人権回復と民主的な政教分離の政府を求めて、最近では、教育、衛生、自立支援など幅広い活動を展開。
- ・設立は1977年。設立時のリーダーであるニーナは、1987年、イスラム原理主義者と共謀したKGB（当時のソ連諜報部）の手先によって、パキスタンで暗殺された。
- ・ヘワードハイスクール・・・アフガニスタンに近いパキスタンの難民キャンプにある。現地では非常に珍しい「男女共学」。しかし、今年になって、「男女共学や民主主義教育を

続けるなら襲撃する」と武装勢力から脅され、転居を余儀なくされている。

- ・孤児院・・・子ども達は日本の折り紙が大好きでとても上手。シャボン玉遊びも好き。「食べ物と教育だけはちゃんとしたい」というのが、現地で中心になって献身的に支えている夫妻の思い。アフガニスタン、パキスタンでは、「英語が話せる、パソコンが使える」というのがちゃんとした就職が出来る条件。そこで、パソコンは「連帯する会」が現地調達、英語も希望者には教えている。
- ・その他の活動・・・識字教室、医療活動など。

6 「RAWAと連帯をする会」の活動・・・中心は教育支援

- ・教育支援中心の活動・・・「連帯する会」は多くの活動をしており、その中心は教育、中でもヘッドハイスクールへの支援に力を入れている。ヘッドハイスクールの運営資金(人件費、その他すべて)を全面的に支援。その他、身の回りにある体温計や血圧計などを持っていたり、色々なことをしている。
- ・1年に1度は現地に行き、現地の実情を知り、何が必要かを聞いて活動を続けている。

7 逆効果の「軍事支援」・・・現地の声と実態にあった支援こそ大切

- ・かつて、アフガニスタンでは、「戦争をしなかったのに経済の復興をやり遂げた」ということで、日本に対し非常に親近感を持っていた。ところが自衛隊の派遣や「給油」によって、今では化けの皮が剥がれてきて、アメリカやヨーロッパのNATO諸国と同じように見られている。私もパキスタンの人に「日本もそんな事してたんか、何でするんや」と聞かれて辛い思いをしたことがある。「私は反対している」と言っただけのもの、日本全体として見られる。
- ・民主党中心の政権になって、「給油法は継続しない、民生支援でいく」と一応は言っているが、小沢さんは「国連のアイサフ(戦闘も行う軍隊)ならいい」と言った。自衛隊を出したら「やっぱりそうなんか」と思われる。軍事支援ではどうにもならず、疲弊と混乱が増すばかり。高額の民生支援が言われているが、どんなことに使われるか分かったものやない、というのが私の思い。しっかり見守っていく必要がある。
- ・民主的制度に必要なだとして何かを押し付けても、現地の実情にあわなければどうにもならない。支援で大切なことは、現地の実情をよく聞き、現地の実情に添ったものにするのだ。

以上

● 参加者の声

講演は「目から鱗」の話が多かったし、トークでは生の戦事体験だけに貴重な話ばかり。「お国言葉で語る憲法九条」では、心に響く語りだった。サキソフォンとキーボードは「さずがプロ」の演奏。どれも中味が濃かったねー。(S)